

## 井口賢明会員 在籍50年祝賀会

実行委員長のような大役をやると終了後に死んでしまうというようなジンクスがあったようです。私は実行委員会副幹事にもなり、この年は、クラブの会合、地区大会準備の会合と自分の仕事をする暇がなかった思いでした。その頃、ワープロが出回るようになっていて、そのような器具が好きだったので、確か130万円位したかと思いますが購入し、これが大会関係の資料作成に大活躍してくれました。しかしその後、鈴木ガバナーが年度早々にダウンされ、アクチングガバナーとして甲府RCの高野さんが就いたことにより、打ち合わせは甲府とやりとりすることになり大わらわでした。そして、大会委員長を務めた浅賀さんが翌5月に亡くなられたとの報せを聞いたときには、がっかりしてしまいました。

### ・米山記念館のこと

私にとって想定外だったことは、米山記念館に関与することになったことでしょうか。平成15年、クラブで記念館の運営委員に指名され、運営委員会の初会合でいきなり記録小委員会の委員長に指名されました。記念館は翌平成16年に創立35周年を迎える、その記念事業の一つとして、これまで記念誌がないので、35周年誌を16年中に編集、発刊してほしいとのことでした。動天驚地のことです。以来1年半、その準備に多くの時間を割くことになりました。その35周年事業の打ち上げで、当時の内藤理事長から常務理事をやれと言われ、結

局受けざるを得なくなり、10年近く常務をやることとなりました。

### ・当クラブと米山記念館とのかかわり

記念館は、当地区やその他各地の方々の援助から成り立っていますが、当クラブが一番かかわりが深いように思います。その理由は、当クラブの松井謙一さんが初代理事長であったことです。松井さんはロータリーに大変熱心で、毎日どこかのクラブに出席し、出席率500%とか700%などと言われていました。松井さんは記念館設立後、少ない資金の中でその運営に苦勞されてきました。記念館の事務局は、当クラブの事務局が担当をし、見学者があると、大野さんなど北RCの会員に頼んでは諸事務をこなしていました。しかし、如何にせん資金調達に苦勞し、地区に頼らざるを得なくなり、松井さんが引くようになりますが、2代目の大河原理事長と松井さんとのつながりにより、記念館との深いつながりは以前同様でした。その後、昭和60年に長泉RCが誕生し、長泉RCが記念館の面倒を見るようになり、当クラブはやや引けてきたように思います。しかし、それまでの記念館とのかかわりにより、他所のクラブの方は、北RCの会員は米山さんや記念館のことをよく承知していると速断しがちです。ですから、当クラブの会員には、是非記念館の内容を知っておいてほしいと思います。

(ご挨拶要約)

